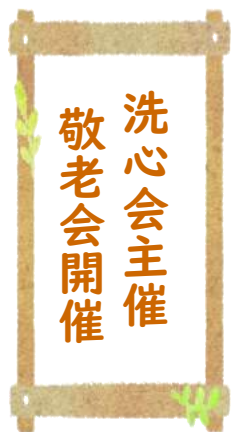


右の絵は明治八年に書かれた正法寺の見取り図です。明治時代に県へ提出された書類のようなものでしょうか。(はつきりは分かりません)十月に諫早の本願寺派教務所からの依頼で、本願寺史料研究所の調査が入りました。新聞でご存知の方も多いかと思いますが、その際に親鸞聖人の直筆も発見されました。こちらの絵もその調査中に出てきたものです。この絵よりも前から、四百年以上の歴史の中で真宗の教えが伝えられてきたのが、正法寺です。過去を今一度確認していくことの大切さを知らされる出来事でした。



肥前國彼杵郡大村第十一大区二小區
真宗正法寺圖繪面實況

2019.12
第15号
正法寺発行



ご法話は八女からお越しの島村先生。

十月二十日(日)に洗心会主催の敬老会が開催されました。敬老者は十六名の参加でした。正法寺の敬老会は、まずお勤め・ご法話から始まります。年を重ねていくことの意味をご本尊の前でじっくり考えるというのは貴重な時間で、毎年みなさん喜ばれています。その後は食事をいただきながらオカリナの演奏を楽しみました。一緒に童謡も歌いました。その後は飛び入りカラオケの他、脳トレクイズにも挑戦し、大村音頭で閉会となりました。



初めてお願いした、「オカリナの森アンサンブル」の演奏にみなさん感動!



敬老会は毎年秋の永代経最終日に開催します。対象は75歳以上の方。ご門徒の方はどなたも参加可能です。ぜひご参加ください!!



漢字やひらがなを埋める脳トレに挑戦!



紙上体験

正法寺

⑦洗心会

洗心会はいつでも新しい

参加者をお待ちしています。

↓下記の申込書もご利用ください！

冒頭の写真は洗心婦人会(平成二十六年より洗心会に改名しています)昭和五年の写真だと考えられますので、洗心会の歴史は少なくとも九〇年以上あるということになります。時代と共に活動の形は変わるものの、ご本尊を中心に女性の力を生かした形でお寺に関わり、共に教を聴いて来た人々の歴史が洗心会にはあります。

現在会員数は二百五十名で、高齢化に伴い年々その数は減ってきている現状です。昔は同じ地区の方のお誘いなどで入られた方も多かったと思いますが、昨今は個人の意思で入られる方もおられます。もしこの紹介を見られて関心がある方はいつでもご連絡ください。活動に参加が難しい場合は「賛助会員」の形もあります！

【目的】

- ①親鸞聖人の教を聴き聞き、ご本尊を中心とした活動をする。
- ②お念仏を振り所とする生活を支える場となる。

【会費】

年会費 600円
※毎年12月末までにお寺もしくは地区ごとの世話人へご納金ください。

【賛助会員】

活動できないけど、会費は納められる方

【組織体系】

会長:1名、役員:2名、会計:1名、監査:2名
※他に運営委員もいます

主な洗心会の行事



1日研修旅行



花まつり



1日研修会



敬老会

その他の行事

■洗心会物故者追悼法要

これまで会員としてご尽力下さった方の追悼法要を年に一度行っています。

■勉強会

「経の学習会」(毎月28日)に参加しましょうと声を掛け合っています。

洗心会入会申込書

■入会者様情報

ふりがな	
お名前	
生年月日	平・昭・大 年 月 日
住 所	〒 -
TEL (自宅)	- -
TEL (携帯電話)	- -
E-mail	@

■施主様情報

ふりがな	
お名前	
続 柄	

※お申込みの際は、キリトリ線から切ってお持ちください



法要の後にいただく食事の事をお斎(おとし)と言います。

全席利用	受付時間
お名前	お名前
ご住所	tel.
※お申し込みは1週間前まで受付いたします。30日前まで受付いたします。	
1	2
3	4
5	6
7	8
9	10
11	12
13	14
15	16
17	18
19	20
21	22
23	24
25	26
27	28
29	30

カードはお寺で保管し、法要前などに連絡し合ってスケジュールを組みます

正法寺お斎申込カード



台所奉仕カードに

登録しませんか？

法要中のお斎作りを洗心会々員が中心に行っています。もちろん会員でなくても大丈夫。寺友(でらしとも)作りに、地域の方との交流に参加してみませんか？

洗心会の方を中心におこなっています！

お寺で皆さんと共に話を聞いたり、活動をしていると、普段の生活の中であせっている自分自身を顧みる事が出来、ほっとしたり、みんな同じなんだなと思ったりします。地域の方とお寺で再会できるのも嬉しいですよ。(諏訪・桃原)

洗心会の活動に
来られている方へ
お話を聞いてみました！

なかなか全ては参加できませんが、主人を亡くしてからとは同じような境遇の方とお話できる機会をお寺で持つことができています。そういう時間がお寺ならではの時間かと思っています。(久原・林)



洗心会一日研修旅行 【浄音寺(西海) - 遠藤周作文学館 - 原爆資料館】 行ってきました！



洗心会では毎年一日研修旅行を行っています。今年は春季永代経法要にてお話いただく服部先生ご自坊にうかがい、お話をいただきました。本堂の入り口からは海が眺められる素敵な場所でした。



昼食は浄音寺さんからすぐの所にある「小安丸」というお店でお魚づくしの料理をいただきました



南無船会

男性参加者の多い南無船会も
いろいろ活動しています！

昨年に発足した南無船会、今年も順調に予定していた行事を行っています。7月の正法寺キッズとの合同ボウリング大会、9月の名和先生(秋彼岸ご講師)をご講師に迎えての特別学習会と懇親会。令和2年の2月には、青木先生をご講師にした特別学習会と懇親会も予定しています。まだまだ未熟な会ですが、今後の活動にご注目ください。



坊守の 仏^{ぶつ}ツ寺日記

【七】

お寺で思う
いろんなこと
語ります!!



「南無阿弥陀仏からはじめよう」

題名のある連載を始めることにします。
一回目は「南無阿弥陀仏からはじめよう」。
真宗門徒からお念仏の声が聞こえなくなっ
たと言われるようになりました。世代の
違う家族が共に暮らさなくなっているの
ですから、お念仏が伝わらないのも仕方
がないようにも思います。そこであえて、
お念仏する習慣のススめ、をします。

ご自宅のお内仏（仏壇）の前でお参りを
される際、声に出して「南無阿弥陀仏」
とお念仏されていますか？「南無阿弥陀
仏」は称えたから病気が治るとか、運が
よくなる、というようなものではありま
せん。ではどういうことか？というの
は、おいおい考えていくとして、まずお念
仏を声に出してみよう、ということを提案
します。「何回称えるのですか？」と聞
かれることがあります。今回は、息が続
く限り称えてみる、身体の中の空気が出
てしまうまで言い続ける方法をおススめ
します。言い方は「ナムアミダブツ」で
も「なまんだぶ」でもよいでしょう。お
念仏をしたら何か変化が起こるというわ

けではないと書きましたが、身体の中に
ある空気を全部出してしまふことはその
後の「吸う」動作に少なからず影響を
与えます。それがどんなものかは、まず声
を出してお念仏してお参りしてみなけれ
ばわかりません。まず兎にも角にも声に
出してお参りする。朝夕に正信偈を読む
のが難しいという方でも、これならでき
るのではないのでしょうか。出来る限り毎
日、息を吐き切る時間を意識的に持つ。
ナムアミダブツと声に出してみる。
どうですか？やってみませんか？

東本願寺出版部発行

『同朋』にて対談をしました！

こちらの連載を読ん
でくださった本山出版
部の方からお声がけが
あり、月刊『同朋』に
て京大の藤原辰史先生
と対談をさせていただきました。
現在正法寺
にて無料配布をしてお
ります。ぜひお読みく
ださい！（残り冊数が
僅かなのでお早めに）



正

法

寺

近

況

【正法寺に親鸞聖人直筆が！】



令和元年10月4日

長崎新聞

10月4日の新聞やテレビによる報道の通り、
正法寺所蔵の親鸞聖人直筆が本物であるこ
とが判明いたしました。諫早の本願寺派教
務所での記者会見は、写された經典の重要
さについて若い記者からの質問が絶えず、
大変盛況でした。

【住職の次男が得度しました！】



今年の8月7日京都
の東本願寺にて、住職
の次男（道光・みちて
る）が僧侶となる第一
歩として得度式を受式
しました。今後は法要
などでお勤めにも参加
いたします。どうぞよ
ろしく願います。

これも仏教用語?!

普段から使っている言葉には

仏教由来の言葉が実はたくさん

そんな言葉を紹介します

今回の言葉は、

「出世」



「彼は同期で一番の出世頭だ!」など、「出世(しゅっせ)」という言葉は、立派な地位、身分になる事、更には経済的に豊かになるといった意味で用いられます。この「出世」、実は仏教語なのです。

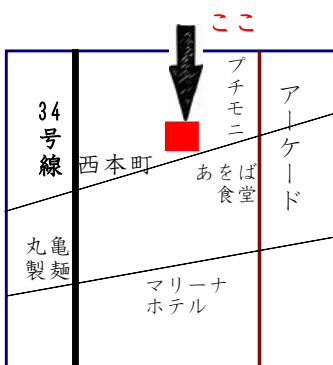
本来は、仏さまが衆生(しゅじょう※)救済のためにこの世に生まれ出ること、出世間(しゅっせけん)の略とされます。

また、俗世を離れた仏道の世界という意味も持ち、迷いの世界(世間)から飛び出せば、考え方や価値観を超えて、広々と豊かに生きていける素敵な世界があることを、この言葉は浮き彫りにしています。

会社内の出世争いなんて、何だか狭苦しいものを感じてきませんか? 深呼吸して、かた苦しい日常から出世してみてはいかがでしょうか。

※衆生:…生きとし生けるもの

真宗会館ホームページより転載



和風喫茶の名店として有名な「小梅庵」さんが場所を移転しています。ご存知ですか? 再開発が進む元浜屋周辺に以前の店舗があったお店です。様々な種類の創作おにぎりが人気で、ぜんざいやあんみつなど、和風デザートも楽しめるお食事処。メニューは前と変わっていないものの、客席が増えています。温かいおぜんざいやうどんなど、これからの季節おススメです!



お食事処・和風喫茶

「小梅庵」

住所: 大村市本町518

電話: 52-6016

営業: 午前11時～

みつつけた!



除夜の鐘撞き

年越しは

正法寺本堂で

12月31日24時前から

お勤めと鐘撞きが

あります

正法寺に入りたての頃、寝坊や道に迷ったりと、たくさんのご迷惑をかけたことを思い出します。ミスをする中でも正法寺の皆さんは優しく接してくださり、本当に感謝しています。また、貴重な体験をたくさんさせていただきました。この経験を次の職場である大分市・長久寺様でも十分に生かしたいと思っています。

法務員の原田君が地元に戻ります!
大変お世話になりました



ます。またお会いできるのを楽しみにしております。

原田

特に正法寺キッズの活動に貢献してくれました!



赤ちゃんのお祝い

初参り式に

ご参詣ください

令和二年は

5月10日(日)です

今からでも電話で

受付いたします

しんしゅうおおたには
正法寺は真宗大谷派の寺院です

本尊	あみだによらい 阿弥陀如来
正依の經典	仏説無量寿經（大經） 仏説観無量寿經（観經） 仏説阿弥陀經（小經）
宗祖	しんらんしょうにん 親鸞聖人
宗派名	しんしゅうおおたには 真宗大谷派
本山	しんしゅうほんびょう 真宗本廟（東本願寺）



真宗・入門

朝には紅顔ありて
夕には白骨となる身なり



れんによしようにん
蓮如上人ってどんな方？

「白骨の御文」や、五木寛之の小説「蓮如」
でも有名の蓮如上人について紹介します。

①どんなことをされた方？

蓮如上人は室町時代中期にお生まれになり、当時衰退して大
変貧しい状態にあった本願寺を再興された方です。冒頭でも紹
介している「白骨の御文」に代表される多くの「御文」を、庶
民にも理解しやすいカナ混じりの文体で書かれました。また、
今では当たり前の事となっている真宗門徒が朝夕に「正信偈」
のお勤めをする形を考案したのも蓮如上人です。

②代表的な出来事は？（ミニ年表で見るご生涯）

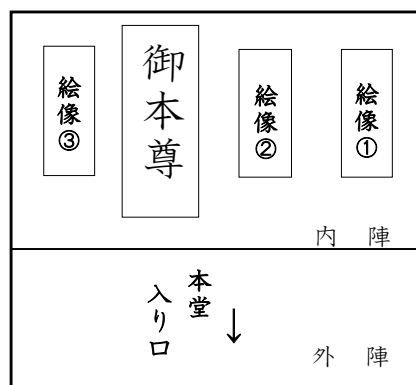
一四一五年	京都東山大谷本願寺誕生	一四八九年（75歳）	白骨の御文執筆
一四五七年（43歳）	本願寺継承（八代目となる）	一四九八年（84歳）	最後の御文を書かれ 翌年に往生
一四六十年（46歳）	「正信偈大意」執筆		
一四六一年（47歳）	最初の『御文』執筆		

※二百を超える御文より四つが赤本
【六十頁】に載っています。

③知っていますか（クイズ）？

実は、蓮如上人の絵像は
いつも本堂に飾られていま
す。さて、どこに飾られて
いるでしょうか？

- ①ご本尊の二つ右横
- ②ご本尊の右横
- ③ご本尊の左横



答えはこの新聞のどこかにあります



住職が語る『正信偈』第15回



釈迦如来楞伽山 為衆告名南天竺

龍樹大士出於世 悉能摧破有無

宣說大乘無上法 證歡喜地生安樂

今回からは依釈段の龍樹章と呼ばれる段落を見ていきます。お釈迦様の説かれた念仏の教えを正しく解釈し、後の世に伝えてくださった七人の高僧の一人、インドの龍樹大士について語られていくところです。

まず最初にあります「釈迦如来楞伽山為衆告命」ですが、お釈迦様が楞伽山という場所で教えを説かれたという事です。楞伽はサンスクリット語（古代インドの言語）の「ランカー」という言葉を、そのまま発音を漢字に当てはめて翻訳した音写語で、現在のスリランカを指します。お釈迦様はインド中を旅され教えを説いてまわられましたが、海を渡ったスリランカ島でも教えを説かれており、そのご様子『楞伽經』という經典におさめられているのです。

その『楞伽經』には次のような一節があります。「私が得たさとり智慧は、普通の人々が了解できるものではない。私が死した後、仏のいない時代に入るだろう。しかしインド南部の国に大いなる徳をそなえた僧があらわれる。龍樹菩薩という名前である。彼は有無の見を破り、人々のために私の依りどころである大乘のこの上ない教えを説くだろう。そして歡喜地というさとの位に入り、阿弥陀仏の安樂浄土に生まれるであろう」と。

この一節がまさしく正信偈龍樹章の「釈迦如来楞伽山証歡喜地生安樂」までの六句の元となったお言葉であり、依り処となる法文なのです。

さて、お釈迦様は、人々は「有無の見」という誤った考え方に固執し迷っているが、それを龍樹菩薩は打ち破ってしまおうと仰っています。有無の見というのは、有る無しにこだわって生きている私達のもの見方、考え方を指しています。例えば「人間は死んだ後も、魂のようなもので何かしら実在し続ける」というのが有見です。

逆に「人は死んでしまえば、何も残らない。無に帰してしまふ」というのが無見です。どちらの見解にしろ私達人間の知恵では本当の答えは導き出せません。どちらの立場に立つとしても、それは自分の思いに立って決めつけているに過ぎないのです。私達の想像の域を出ない以上、そういうことをいくら考えても意味を持たないのです。これが正しい、あれが正しい、そういうことにとらわれることが自体が煩惱であり、自らの迷いを深める行いであると龍樹菩薩は気づかれたのです。

このことは私達の信心というものにも当てはまるのではないのでしょうか？阿弥陀如来の救いが実在するから信じる。そんなものはないと思うから信じない。親鸞聖人はそういう見方にたったの信心を自力の信心であると否定されています。有無の見にとらわれて生きる自分に気づいた時、如来より賜りたる信心というのがいたただけるのではないのでしょうか。